

三朝町の小学生読本

わたしたちの

三 徳 山

三徳山の歴史と日本史について

名 前：

・三徳山の歴史

東小学校から東へ約5キロ。遥拝所から三徳山を望むと、断崖絶壁の岩窟の中に、静かにたたずむ投入堂を目にすることができます。

威王像が納められていたことから、古くは威王堂と呼ばれていた投入堂（注1）は、三徳山三佛寺の奥の院として、建物としては鳥取県唯一の国宝に指定されています。



現在の三徳山には、（国宝の投入堂 向かって左側の小さいのが愛染堂）国宝の投入堂と愛染堂、重要文化財の納経堂などを含む11のお堂と社、3つの坊舎（皆成院・正善院・輪光院）があり、休日にはたくさんの参拝者で賑わっていますが、三徳山はどのような目的で開山され、今日に至っているのでしょうか。

三徳山の歴史を物語る建物や美術品を紹介しながら、三徳山の謎とその時の日本に迫ってみましょう。

（注1）投入堂

役行者が三徳山を訪れたとき、ふもとで造ったお堂を法力（念力）によって、断崖絶壁の岩窟（ほらあな）に投げ入れたという言い伝えから、投入堂と呼ばれるようになりました。

1. 三徳山の創建

寺伝によると、飛鳥時代（706）に、役行者（注2）が3枚の蓮の花びらを空中に投げ、仏に縁のあるところに落ちるよう願うと、大和の吉野山（奈良県）伊予の石鎚山（愛媛県）そして伯耆の三徳山に落ちたため、そこに修験道場（注3）を開いたと伝わっています。また、平安時代前期（849）に円仁（注4）が、釈迦・弥陀・大日の三佛を安置し「浄土院美徳山三佛寺」と称したと言われます。

現在では焼失などで失われてしまいましたが、三徳山そのものが信仰の対象となっていたため、山中には自然の立地を巧みに活かして配置されたお堂や社が多数ありました。

（注2）役行者

奈良時代の山岳修行者で、修験道を開いた人。名を小角といい、山奥で厳しい修行を重ねることで、呪術者として名を馳せたといえます。

（注3）修験道

役行者を祖と仰ぐ日本仏教の一派。山に超自然的な力や霊的な存在をみなす山岳信仰に基づくもので、山中の修行による超自然的な呪力の獲得を目的としましたが、後世の教えでは、自然との一体感により悟りを開き、仏になることを重視しました。

（注4）円仁（慈覚大師円仁）

天台宗の開祖最澄に教えを受け、比叡山の基礎を確立しました。

その時、日本は？

三徳山が開山する100年前。聖徳太子が仏教を広めるため、奈良に法隆寺を建立しました。その一部は、世界遺産にも登録されている世界最古の木造建築物です。

710年に都が奈良に移され、奈良時代となりました。この時代に古事記や日本書紀が作られました。

三徳山の開山から50年後の752年に、東大寺の大仏ができました。大仏殿は世界最大の木造建築物として有名です。

ほうりゅうじ
法隆寺

飛鳥時代(607)に、推古天皇と聖徳太子によって建てられた法隆寺は、世界最古の木造建築として広く知られています。また、飛鳥時代をはじめとする各時代の建築物や宝物など、国宝・重要文化財に指定されたものが約190件、2300余点到に及ぶなど、世界的な仏教文化の宝庫としても有名です。



とうだいじ
東大寺

世界最大の木造建築物として有名な東大寺大仏殿の中に、盧舎那大仏が座しています。

大仏は、奈良時代(752)に造られましたが、885年の大地震で頭がもげたり、源平の争いで建物が燃やされたりするなど、幾多の災難にあいましたが、江戸時代初期(1692)に造りなおされました。その後、明治・昭和と二度の大仏殿の大修理が行われました。



なお、都の東側にある大きな寺だったため、東大寺と呼ばれたという話です。

2. 古代の三徳山

平安時代の末期になると、三徳山は天台宗の寺院として西の大山と並ぶ勢力となりました。

当時の大山寺には、南光院、中門院、西明院の三院がありました。『大山寺縁起』などによると、平安時代後期（1168）ときの天皇の大嘗祭（注5）に対する献上品について、南光院と中門院、西明院との間で争いが起こりました。

このとき、三徳山の僧兵が南光院に味方をしたため、中門院、西明院の僧兵が三徳山に押し寄せ、諸堂を残らず焼き払ったと伝わっています。

また、この後に起こる源平の争乱によって、三徳山は一時衰退しましたが、鎌倉時代には源頼朝の命により、お堂と社38宇、坊舎100余が再建され、寺領（注6）3000石が与えられるなど、権力者の庇護を受けて勢力を維持しました。

（注5）大嘗祭

天皇が即位後、初めて行う新嘗祭（その年に採れた穀物を、天と地の神にすすめる祭儀）で、一代に一度だけのビッグイベント。

（注6）寺領

寺院の所有する領地。

その時、日本は？

朝廷の政治は貴族によって行われていましたが、平安時代中期以降になると武士の力が強まりました。平安時代後期になると、平家が政治の実権を握るようになりました。その後、源氏と平氏の争いが起こり、勝利した源氏が鎌倉幕府を開きました。

こうして、明治時代まで武士の時代が続きました。

3．中世の三徳山

鎌倉時代かまくらの三徳山じりょうの寺領は、現在の東小
学区（三徳地区と小鹿地区）とほぼ同じ
でしたが、南北朝なんぼくちようの争乱そうらんによって三徳山は
再び衰退すいたいしてしまいました。

しかし、この頃になると、九州をはじめ、
全国各地から来た行者達によって、多くの
写経しゃきよう（注7）が納経堂のうきようどう（注8）に奉納ほうのうさ
れるなど、三徳山は信仰の対象として、中
世日本に広く知られるようになりました。



投入堂の手前てまへにある納経堂

（注7）写経

経典（お経）を書写したものを。

（注8）納経堂

経典（お経）や写経を納めるためのお堂

その時、日本は？

鎌倉時代末期、幕府を倒そうとして失敗し、隠岐島おきのしまに流されていた
後醍醐天皇ごたいごは、島を脱出したのち、名和氏の協力を得て、幕府の追
っ手を船上山で迎え撃ちました。その後、足利尊氏の室町幕府あしががたかうじ むらまちとの
あいだで、天皇の位を継ぐ皇位継承こういけいしやうをめぐる対立したため、後
醍醐天皇ごたいごの南朝と室町幕府の北朝の間で争いが起きました。

室町時代に、金閣寺・銀閣寺が造られ、生け花・お茶・すみ絵・
能など、現在に伝わる文化が盛んになりました。

4．戦国期の三徳山

戦国期に入ると、三徳山は、またしても戦火によって衰退すいたいしますが、
羽衣石城主（湯梨浜町羽衣石）の南条氏により寺領500石があたえ
られ、堂社11宇、坊舎12軒が再建されました。その後も、各時代
の有力者によって三徳山は守られていきました。

その時、日本は？

貴族に代わって力をつけた武士は、自分の領地を増やすことにより、大名となりました。室町幕府の力が衰^{おとろ}えると、各地の大名は勢力争いをはじめ、戦がつづく戦国時代となりました。

やがて、織田信長^{あだのぶなが}と豊臣秀吉^{とよとみひでよし}が戦国の世を統一し、つづく徳川家康^{とくがわいえやす}が江戸に幕府を開くことによって、戦国時代が終わったのでした。

5 . 江戸時代の三徳山

鳥取藩主池田氏の家老から寄進状^{きしんじょう}（注9）が出されたことにより、100石が保証され、藩が三徳山を守るようになりました。これ以降、三徳山は藩主のための祈祷^{きとう}（注10）を行うようになります。

なお、このときの寺領^{じりょう}は、俵原村、井土村、門前村の3村でしたが、藩は、この3村に対して、三佛寺^{さんぶつじ}に罪を犯した村人を裁く権利や村役人の任命^{にんめい}、法会や祭礼など、寺の公用に村人を奉仕させる支配権^{さば}を認めていました。

（注9）寄進^{きしん}

寺などに金銭や物品を寄付すること。

（注10）祈祷^{きとう}

神仏に祈ること。

その時、日本は？

全国にいる大名たちのトップとなった徳川家は、大名たちの行動を取り締まることによって、戦が起きないようにしました。

江戸時代には、浮世絵^{うきよえ}や歌舞伎^{かぶき}、寺子屋^{てらこや}や蘭学^{らんがく}といった町民文化が盛んになりました。しかし、江戸時代後期になると、ききんや厳しい年貢の取り立てなどによる一揆^{いっき}や打ちこわしが増えたり、アメリカによる開国の要求があつたりして、幕府は様々な問題に対応する力を失い始めていました。

そのため、武士の中には幕府をたおし、新しい社会を作ろうとする動きが芽生え始めていました。

6 . 近代以降の三徳山

明治元年（1868）、政府によって神仏判然令（注11）が出されました。このとき民衆によって、全国の寺が破壊される事件が多発しましたが、大山寺も例外ではなく、このときを境に衰退してしまいました。しかし、三徳山は神社として取り扱われていたため、大規模な破壊から免れることができ、現在までその姿を残しています。

（注11）神仏判然令

江戸時代は仏教が国教とされていましたが、明治政府は神道を国教と決めました。

そのため、政府は寺と神社を明確に分ける法律『神仏判然令』を出すことになりました。

江戸時代の民衆は、幕府の政策により、強制的にお寺に所属することになっていましたが、僧の中には、かなり横暴なことをする人もいたようです。そのため、僧侶に反感を持っていた民衆が、この法律を悪用して、寺や仏像を壊す事件が全国で起こりました。

その時、日本は？

明治となった日本は、欧米列強（アメリカ・イギリス・ロシア等）から国を守るため、学校制度・国民皆兵・技術の導入・国会の開催など、急速に近代化を進めていきました。

7 . これからの三徳山

明治36年（1903）に、美術界の権威、岡倉天心と建築学の関野貞が文化財の調査のため三徳山を訪れ、投入堂と蔵王権現立像を国宝に推薦しました。これを受け、投入堂は特別保護建物に指定され、昭和9年（1934）には、三徳山が名勝及び史跡の指定を受けました。そして昭和27年（1952）、投入堂と愛染堂が国宝に指定されたのです。

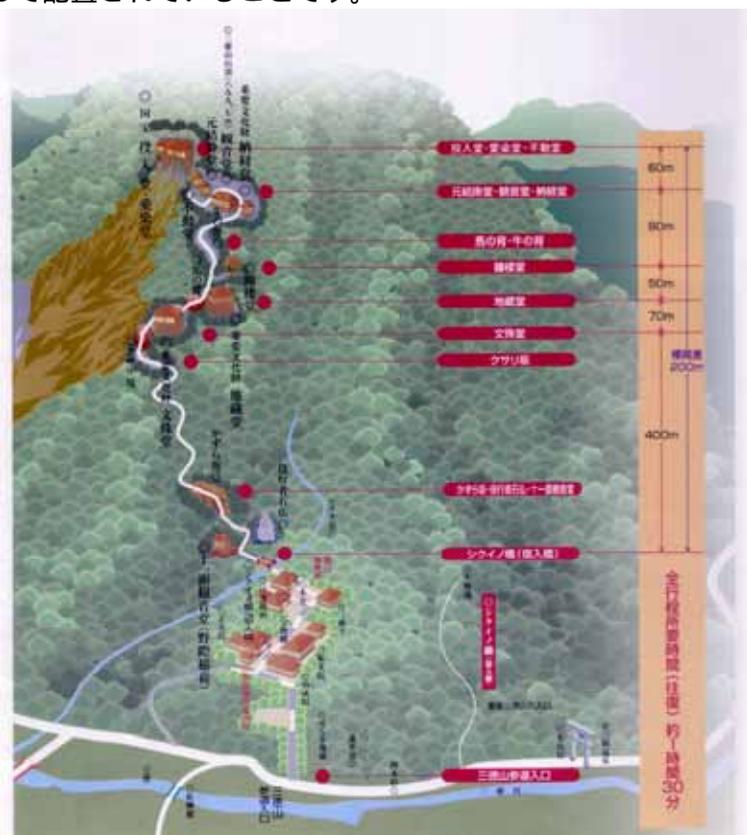
開山以来、三徳山は、その時々政治的な抗争や社会の変動によって、隆盛と衰退を繰り返してきました。

しかし、現在では国・県・町と、三徳山を愛するたくさんの人たちによって、^{なげいれどう}投入堂や^{きおうごんげんりつぞう}蔵王権現立像などの文化財、そして行者達が修行の場として選んだ、^{きび}厳しさと美しさをあわせもつ豊かな自然が守られているのです。

・ 三徳山の諸堂とその文化財

三徳山には現在 11 の堂社と 3 つの^{ぼうしや}坊舎があります。堂社のうち国宝が 2 棟、重要文化財が 3 棟、県指定保護文化財が 6 棟あります。

三徳山の建造物について注目すべき点は、^{みつぎよう}修験道や密教の思想を反映しつつ、^{ちようわ}周辺の自然環境と調和するように、^{りうち}自然の立地を巧みに利用して配置されていることです。



1 . 投入堂・愛染堂（国宝）

年輪年代法（注12）による測定で、平安時代後期の建造であることが確定しました。

投入堂の隣にある小さなお堂が、愛染堂です。

投入堂は1000年以上、この場所にたたずんでいます。



（注12）年輪年代法

年輪年代法は、木の年輪を調べることによって、その木が何年に伐採されたのかを調べる方法です。木は成長するとき年輪をつくりますが、年輪の幅は気温や降水量など、気候の違いによって毎年異なります。例えば、706年は気候が良く、707年と708年は気候が悪かった場合、それぞれの年輪の幅は、中心から外側に向けて広い・狭い・狭いというパターンになります。

奈良文化財研究所の光谷先生は、こうした年輪のパターンをたくさん調べて「暦年標準パターン」を日本で初めて作成しました。

これに調べたい木の年輪を照合させると、いつ伐採されたのかが分るので。

なお、樹皮付近の年輪が最も信頼性が高く、中心部に近づくほど信頼性が低くなります。

2 . 納経堂（重要文化財）

春日造りとしては日本最古の神社建築で、年輪年代法により平安時代後期の建造であることが判明しました。

本来は山内の鎮守神を祀ったものと推測されます。



3 . 地蔵堂 (重要文化財)

崖の岩の上に舞台づくりとして建てられています。

本尊は子守延命地蔵菩薩で、子守権現として創建されました。

内部の造形等から室町時代末期の建造と思われます。



4 . 文殊堂 (重要文化財)

地蔵堂と同じく、崖の上の岩に舞台づくりとして建てられています。

本尊は文殊師利菩薩でしたが、もともとは勝手権現として創建されました。

扉の金具には『金物之檀那南条備前守 天正八年（安土桃山時代）三月吉日』と文字が刻まれており、三徳山が領主に保護されていたことを伝えています。



5 . 葺王権現立像 (重要文化財)

投入堂の正本尊として、他の6体の中央に安置されています。

他の6体は、1本のヒノキから彫られています。この像はパーツごとに彫られたものを合体させた寄木造の彫刻であることから、技法的にもっとも新しい像であることが分ります。

なお、この像の中にあつた文書を調べた結果、この像は平安時代末から鎌倉時代初期の仏師康慶(注13)の作であることが分りました。



(注13) 康慶
康慶は、東大寺南大門の仁王を造った運慶、快慶の師匠として知られています。
写真の仁王像は吽形で、口を閉じています。
口を開いている仁王像が阿形です。

6 . 最古の葺王権現像 (重要文化財)

この像は、投入堂に安置されている7体の葺王権現像のうちで、もっとも古いものとされています。

ヒノキで造られたこの像の左足下には樹皮が残こされていたため、年輪年代法によって、1025年の伐採が確定しました。

したがって、投入堂もこの頃に建造されたと考えられます。



7. 鸚鵡文銅鏡 (重要文化財)

銅鏡の裏の文様には、
花をくわえ翼を広げた
鸚鵡おうむと、翼をそろえた
鸚鵡おうむが、右回りに向かい
合って配されています。

これと同じ銅鏡が、中
国の博物館に存在するこ
とが判明したため、
遣唐使けんとうしが中国からもたら
したものである可能性が
高まりました。



裏面には平安時代中期(997)に、仏像が彫られた
と銘記されています。

. おわりに

三朝町は、三徳山を世界遺産に登録するための活動を行っています。
それは、年輪年代法ねんりんねんだいほうなど科学的調査をはじめ、いまなお、たくさん
の謎なぞがある三徳山を、次の時代にもきちんとした姿で守り伝えていく
ためです。

そのために、お堂やしろあとや社跡はつくつの発掘、古い文書や建物の調査を継続し
て行っています。

また、調査発掘はくつ以外に、1000年以上守られてきた三徳山の自然
や建物を、今後も末永く守っていくために『三徳山を守る三朝町の会』
が結成され、世界遺産登録へ向けての取り組みも盛んに行われています。

この冊子をきっかけに、みなさんも三徳山に親しんでいただき、三
徳山を大切にしていいただければ幸いです。

年表

		三徳山のできごと		社会のできごと
飛鳥	706	役行者が三徳山に修験道場を開いたと伝わる。	607 645	聖徳太子が法隆寺を建てる。 大化の改新
奈良			752 788	東大寺の大仏ができる。 最澄が比叡山延暦寺を開く。
平安	849 1168	慈覚大師円仁が釈迦・弥陀・大日の三佛を安置し、「浄土院美德山三佛寺」と号したと伝わる 大山寺の中門院と西明院の僧兵が三徳山に押し寄せお堂や社を焼き払ったと伝わる。	1167 1180 1185	平清盛が太政大臣になる。 源平の争乱が始まる。 平氏が滅亡する。
鎌倉	1196	源頼朝により堂社38、坊舎100余軒が再建され、寺領3000石が与えられた。	1192 1274	源頼朝が鎌倉（神奈川県）に幕府を開く。 元が攻めてくる（2回目 1281）
室町	1375	投入堂の修理 （記録に残る最初の修理）	1338 1392 1397	足利尊氏が京都に幕府を開く。 南朝と北朝の対立が続く。 南北朝の統一。 金閣寺ができる。 各地に大名が生まれる。
戦国			1467	応仁の乱をきっかけに、戦国時代がはじまる。
安土桃山	1577	羽衣石城主南条氏が社11、坊舎12を再建し、寺領500石を与える。	1590 1600	豊臣秀吉が天下を統一。 関が原の戦い。
江戸	1633	池田氏が鳥取藩主となり寺領100石が与えられた。	1603 1867	徳川家康が江戸（東京都）に幕府を開く。 大政奉還
明治	1903	岡倉天心たちが文化財調査のために三徳山を訪れる。	1868 1871	明治維新 江戸を東京とする。 廃藩置県。武士の時代が終わる
大正	1921	各堂社を修理。その時蔵王権現立像から文書が発見される。		
昭和	1952	投入堂が国宝に指定される。		
平成	2001 2006	年輪年代法による調査を実施。 三徳山開山1300年祭		

わたしたちの三徳山 ～三徳山の歴史と日本史について～

(引用・参考文献)

三徳山とその周辺 鳥取県立博物館

伯耆国美徳山領検注取帳 三佛寺文書

三徳山 米田範真編

三徳山フェスティバル 大三徳山展 三徳山の歴史と美術

名称及び史跡三徳山 大門跡発掘調査報告書 1 三朝町教育委員会

発行 平成17年5月

編集 三朝町教育委員会

鳥取県の宝・三徳山を世界遺産に!